

2014年7月30日

2014年度第1四半期決算説明会における質疑応答

日 時: 2014年7月30日(水) 18:00~19:00
場 所: NEC本社ビル B1F(多目的ホール)
説明者: 取締役 執行役員 兼 CFO 川島 勇

質問者A

Q NECフィールディングの統合により、3年累計で約200億円の費用削減効果を想定していたと思いますが、第1四半期の状況を教えてください。また、ネットクラッカー社についても、第1四半期の状況を教えてください。

A 第1四半期のNECフィールディングの業績は改善となりました。統合に向けてスタートしたばかりではありますが、費用削減の効果が出ています。ネットクラッカー社もかなり良い方向に進んでいます。この第1四半期では、のれんの償却を加味しても損益がプラスになっており、統合後とても上手く行っています。

Q IFRS(国際財務報告基準)の採用について、慎重なスタンスは変わらないと思いますが、その理由を教えてください。

A 幾つかの視点で考えています。前段として、以前、日本国内には2015年頃からIFRSを強制適用するという議論があり、当社は、他社に先駆けてIFRSを導入することで、システム構築事業やコンサルティング事業を伸ばす計画でした。しかしながら、適用時期の判断が先送りされたことにより、IFRS関連市場は、当社が想定していたほど拡大しておらず、ビジネス上の重要性が薄れたのが1つめの理由です。2つめは、IFRSを導入すると、のれんや年金の未認識債務の償却により利益がかさ上げされますが、これは会計処理の問題であり、経営実態は何も変わらないということです。さらに、3つめの理由として、IFRSでは、収益認識、リース会計の認識など主要な基準が変わります。収益認識については、新しい基準が出ましたが、リース会計の認識については、まだ議論されている状況です。そのような状況を見守りつつ、どのタイミングが良いかを検討していきます。

Q IFRSを導入することで、マイナスの影響が顕在化することはあるのでしょうか。

A マイナスの部分はあまりないと思います。一方で、世の中の動向もあるので、総合的に考えていきます。

質問者B

Q 今回、通期計画は修正していませんが、第1四半期の営業損益が50億円程度上振れており、第2四半期以降、その上振れ分を残したいということで悪い印象はありませんでした。下期に

向けてマイナスに振れて、この上振れ分を相殺するようリスクを見ていれば教えてください。

- A 第1四半期は良い方向に動いており、下期に向けてそれを打ち消す具体的な何かがあるとは想定していません。このまま何もなければ通期計画も上振れると思いますが、残り9ヵ月もあり、事業環境をしっかりと見極めていきたいということで計画は変えていません。
- Q パブリック事業の受注の状況を教えてください。好調が持続しているようですが、どのような案件があり、売上がどのように伸びていくのでしょうか。昨年前半から売上伸長が続いていますが、その持続性について教えてください。
- A パブリック事業は、大型案件の状況で受注の増減が変わります。大型案件を除くと第1四半期の受注は、前年同期比で10%増となり、その内訳としては、IT関係が10数%、社会インフラ関係が数%とそれぞれ伸長しました。
- Q SDNでは、テレフォニカ社との実証実験をしていますが、現時点でそのビジネスの収益認識はいつ可能になると考えていますか。
- A 今年の夏から秋頃にかけて、テレフォニカ社と数千人規模のトライアルを予定しており、年度後半からの商用サービス開始に向けて準備しています。その進捗を見極める必要がありますが、順調に進んでいると考えています。

質問者C

- Q エンタープライズ事業の第1四半期の受注状況と、第2四半期以降の見通しを教えてください。
- A この第1四半期は、昨年度に流通系の大型案件があったため、前年同期比では少しマイナスになっています。いろいろと案件が出てきているため、第2四半期以降は戻ってくると考えています。
- Q 第1四半期決算のサプライズは、システムプラットフォーム事業です。営業利益が50億円上振れた背景を教えてください。また、上期は前年同期比でフラットとのことですが、そうすると第2四半期は減益ということになります。何か状況が変わるのでしょうか。
- A 第1四半期で良かった要因は、昨年からのIT投資環境の改善に伴う採算性の改善が継続しているということです。また、第1四半期から第2四半期にずれた費用もあって、改善に寄与しました。第2四半期には、ずれた費用が多少戻ってきますが、全体的に悪くなるというよりも第1四半期で良かったところは第2四半期に残したいと思っています。当初の利益前提は前年同期並みですが、第1四半期の上振れ分を上期で残していきたいと考えています。
- Q 米国ナスダックに上場していた時、収益認識に問題があったと理解しています。IFRSになった場合に、複合契約での収益認識が障害となるのでしょうか。
- A 会計基準を米国基準から日本基準に変えた背景にはそのような問題がありました。その後、組織的に公正価格でデータを管理し、改善しています。IFRSについては、米国会計基準寄り

の公正価格となったので、これまでの対応で良いかは見極めていきたいと思っています。この点がボトルネックか否かと言えば、かつてのような状況ではありません。

質問者D

Q 通期営業利益の会社計画での前年度比138億円の増益は、既にこの第1四半期の改善でクリアされています。リスクに備えておきたいのは分かりますが、事業の非連結化などの影響を確認させてください。また、NECフィールディングの影響はどうでしょうか。

A 第1四半期は、携帯電話端末事業が黒字化し、前年同期から90億円改善しました。一方で、事業譲渡をしたことにより、NECモバイルリングで約20億円、NECビッグローブで10億円程度が、前年同期比の悪化要因となっています。通期予想では、前年の携帯電話端末事業が160億円程度の損失でしたので、その分が改善要因となります。一方で、NECモバイルリングは前年の第1四半期の営業利益約20億円が悪化要因に、NECビッグローブは前年の年間営業利益に相当する約50億円が悪化要因になります。

なお、NECフィールディングは以前から連結子会社であり、営業利益への影響はありませんが、完全子会社化に伴い少数株主持分で外部に出ていた利益分が第2四半期以降戻ります。

このほか、戦略投資は前年度比100億円の増加で見えています。

Q テレフォニカ社の件は先例が無いビジネスだと思いますが、上手く行った時の規模感を教えてください。

A テレフォニカ社だけの回答はできませんが、SDN関連で2014年度に500億円規模の売上を想定しています。

Q 大手のキャリアが導入してくるとどうなるのでしょうか。

A SDN関連では、キャリア向けビジネスで2015年度に1,000億円程度の売上を目指しており、企業向けも加えると1,500億円をターゲットにしています。

質問者E

Q システムプラットフォーム事業の第1四半期での上振れの要因を教えてください。

A サーバを含めたハードウェア関係の採算性が良くなっています。

Q 年金の未認識債務の減少に伴う前年度からの営業利益の改善分100億円のうち、期初の業績予想には半分だけを織り込んでいたと思います。現時点ではどのようになっていますか。

A 残りの50億円は、現時点でも、通期の営業利益計画1,200億円の中には織り込んでいません。一方で、この第1四半期では予算外としていた50億円の1/4が利益寄与しています。

Q IFRSを適用した場合、売上高への影響はありますか。

A 売上の変動はないと思っています。

質問者F

Q IT関連のビジネスの受注は堅調のようですが、大手金融機関などのIT投資に対する姿勢に変化の兆しはありますか。

A 金融機関は特に大きな変化があるというよりも、お客さまのスケジュールに則ってやっています。製造業など一般の民需は動き出した感覚があり、いろいろな商談が進んできています。

Q 第1四半期の税金関連について、前年同期との差異要因を教えてください。

A 前年同期比では、NECモバイルリングの株式売却に際しての連結・単独の簿価の差に伴う税金が無くなったことが大きな要因です。

Q 調整額について、連結納税対象外での赤字が拡大しなければゼロまたはマイナスになり、税金を下げるという考え方で良いでしょうか。

A 前年のNECカシオモバイルコミュニケーションズは損失を計上したため、税効果が取れませんでした。今年度はその分が改善し、通常の状態になると考えています。のれんの部分とその他で少しだけ保守的な計算をしています。

Q 欠損金の繰越控除ができることで、税金が大きく増えないということで良いでしょうか。

A タックスプランニングは個別に見ないと言えませんが、欠損金その他を回収して積んだ引当金が要らなくなるという効果は見込んでいません。

質問者G

Q 上期予想の方向感をふまえると、第2四半期と下期の方向感がイメージできます。まず、パブリック事業は、上期が前年同期比で50億円増益であれば、第2四半期は40億円の増益、下期で100億円程度の増益になりますが、その要因はどのようなものでしょうか。テレコムキャリア事業は、上期が前年同期比で横ばいとすると、下期で通期の増益分が出てくることになりませんが、その要因はどのようなものでしょうか。

A パブリック事業は、受注状況から、第2四半期での出荷が前年同期比で増加し、売上増と利益増になると見えています。下期も同様に売上増による増益を見えています。テレコムキャリア事業は、改善傾向が下期にかけて出てきます。開発の成果や、多少ずれている海洋システムの案件、パソリンクの工事案件のずれた分などが下期に出てくると想定しています。

Q テレコムキャリアについて、パソリンクや海洋システム以外の要因はありますか。

A 主として海外事業の改善が寄与します。TOMS関連ではネットクラッカー社が昨年度に受注

した案件の売上が第2四半期以降に計上され、上期よりも下期の増収率が大きくなります。パソリンクもずれなどがあり、下期にかけて売上が大きくなっていくと考えています。

- Q パブリック事業では、番号(マイナンバー)制度があり、2016年初めに利用が開始されます。一方、やっとベンダを入札で決めた状況で間に合うのか気になります。パブリック事業でのビジネスチャンスとして、どのようなものがあるのでしょうか。
- A マイナンバーは受注が取れて動き出しており、2016年初めの利用開始に向けて、対応できないことはないと考えています。この下期から案件が出てくると思っています。
- Q 2次ベンダが足りないということはありますか。
- A ソフトウェア子会社を再編したNECソリューションイノベータでのリソースシフトなどにより要員を確保しています。人手が少ないことよりも、本質的問題であるプロジェクトマネージャーの確保に取り組んでいます。
- Q 足もとの不採算案件の状況を教えてください。
- A 第1四半期では抑えられた感じがあります。年間でも前年度比で改善を見込んでおり、継続案件はあっても新規案件の発生は減少してきています。

以上